

滝沢村教育振興運動推進協議会 滝沢第二中学校実践区

- テーマ
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子



【実践区長から義援金を渡している様子】

～子どもたちの主体性を支援し、地域ぐるみで育もう～

- (1) 学区全体での取り組みを重点として、小学校、保護者、地域住民との連携を深める。
- (2) 多様な大人との交流を通して、協働と自律の精神を育む。

1 地域の教育課題

- 地域＝中学校区（学校・家庭・地域）が一体となった取り組みがなかった。
 - ・ 小・中学校、自治会等で類似した取組を独自で実践していた。
 - ・ 小・中学校、自治会等の取り組みが周知されていなかった。
 - 子どもたちの活動を支援する体制が構築されていなかった。
- <課題の裏付けデータ>
会議を開催することで、上記の課題について多くの意見が出された。

2 役割分担と年間の計画

- 課題解決のためのそれぞれの役割
 - <子ども>
 - ・ 生徒会から積極的に活動を周知する。
 - ・ 保護者や地域に自分たちの活動を発信する。
 - <保護者>
 - ・ 家庭内の環境を整備する。
 - ・ 子どもと一緒に活動する。
 - <先生>
 - ・ 取り組みの周知・啓蒙を行う。
(学活、校報、学年・学級通信、校内掲示)
 - <地域>
 - ・ 活動の周知を行う。(自治会報、会議)
 - ・ 子どもたちの活動を支援する。
 - <行政>
 - ・ 子どもたちの活動を支援する。
(公用車手配、職員の派遣等)
- 課題解決のための年間の取組
学区としての共通取り組みを実践し、地域一体となった活動を展開する
 - ・ 事務局長（3校の副校長）会議の開催
 - ・ 事務局長・実践区長合同会議の開催
 - ・ 滝二中学区教振推進会議の開催（年2回）
(学区目標、年間計画、反省、次年度計画等)
 - 推進委員（各実践区長、学校長、P会長、副会長、自治会長、児童会・生徒会担当、事務局長）

3 取組の様子

- 学区として以下の4点に取り組んだ。
- ① 親子ふれあい学習週間への取組
 - ② 地域活動日の設定
 - ③ 二中学区教育振興運動だよりの発行
 - ④ 復興支援活動
- 震災以降、滝沢第二中学校生徒会が真摯に活動してきた復興支援活動の輪を学区の小学校、保護者、地域住民に広げ地域一体となった活動を行った。
- 具体的には、学区内の数力所において募金活動を行った。各小学校の児童、保護者、教員、中学校の生徒、保護者、教員そして各自治会の代表者がグループとなり活動した。
- 23年度は1回、24年度は2回実施した。
- 村からの実践活動費でのぼりや横断幕を作成し、一体となった活動が展開できた。
- 募金は、山田町の小学校を訪問して義援金として直接お渡しした。(上記写真)
- 訪問に際しては、行政からの支援を受け、村の公用車を使用した。また、現地視察をする上で、職員の派遣も行っていただいた。
- 子どもたちの「おもい」を多くの大人が支援でき、今後も継続して取り組んでいきたい。



4 課題解決を判断する評価の方法

- 活動を通して、5者の距離が縮まることを、最初の目標としている。
- 評価としては
- ① 学校行事等への保護者、地域住民の参加増
 - ② 地域行事等への生徒・保護者の参加増
 - ③ 諸会議等での活発な意見交流
- などから判断している。
- 今後は、生徒会が取り組もうとしている自主防災活動と地域の防災訓練とリンクさせ、さらに一体となった活動を目指していきたいと考えている。